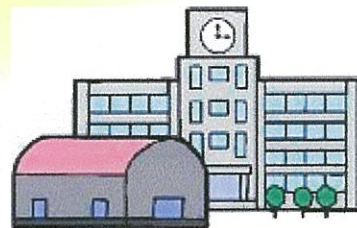


多文化共生をめざして ～だれもが安心して豊かに生活できる学校～

横浜市立いちよう小学校長 田 中 秀 仁

1. はじめに

本校は横浜市の西部、大和市と藤沢市に隣接した県営いちよう団地の中にあり、全ての子どもがいちよう団地内から通学しています。現在、子どもの数は161人、そのうち外国につながる子どもは122人で、全体の約75%になります。その子どもたちは、家庭内では母語、玄関を一步外に出ると日本語を使っている子どもが9割に達し、双方の言葉の語彙が少ないといった課題があります。保護者は、通訳を必要とする人が多く、家庭連絡や個人面談等の情報交換は、丁寧な対応をする必要があります。



2. 全職員による協力指導体制

本校では「外国につながる子どもが安心できる学校は、全ての子どもが安心できる学校」と考え、全職員で子どもたちを見つめ、見守り、指導をしています。具体的には、本校職員が一つのチームになって、共通の願いや目標に向かい「全職員による協力指導体制」を基盤にして、毎日の学習指導や生活指導等の実践を積み重ねています。

また、学校は多くの人や団体との連携によって子どもを育てる場と考え、広く学校を開き、地域関係者はもとより、ボランティア団体や大学関係者等とも協働して、子どもの豊かな学習活動を創造しています。

外国につながる子どもへの指導については、通常教育活動に加え、子どもの実態に応じて日本語指導や教科指導が行われています。指導場面としては、横浜市教育委員会の設置した「いちよう日本語教室」での日本語指導講師(中国語を話せる講師)による日本語の初期指導や生活適応指導、国際教室(ふれあい教室)担当者による日本語指導や教科指導が行われています。

3. いちようの「まち」との連携・協働

家庭や地域、近隣校との連携は、子どもの健やかな成長をめざす上で極めて重要と考えています。

家庭との連携では、家庭訪問を実施したり、保護者が参加しやすいPTAの会合を設定したりしています。そこでは、複数の言語の通訳を通して、一人ひとりの保護者の様々な不安や疑問、学校教育に対する想いを聞くようにし、学校評価にも役立てています。

合わせて、「夏休み学習教室」や「夏休みいちよう団地見回り・声かけ運動」さらには「運動会」「団地まつり」等の行事も、保護者のみならず地域やボランティアの支援を得て実施しています。

具体的には、子どもを中心にして、いちよう団地「連合自治会」「地区社協」「長寿会」「青少年育成協議会」「コミュニティーハウス」さらには「はまっ子ふれあいスクール」「学童クラブ」、子どもたちの日本語指導や学習支援に携わっている「地域のボランティア団体」等との日常的な連携や協働も推進しています。

21年度からは、小中学校9年間を見通したカリキュラムづくりを上飯田中学校ブロックの4校で進め、23年度に完成し、今年度は横浜型小中一貫カリキュラムの実践を進めています。更に、幼稚園・保育園、高等学校との連携も加えた、幼保小中高の連携で子どもの育ちを継続的に見守る活動を通して「だれもが安心して豊かに生活できる学校」をめざしています。